

INFORMATION

令和3年度はこんなことをします

- 4月 ● 維新[ISHIN] 36号発行
- 5月 ● 郷土の人物紹介パネル展示①(～6月)
- 6月 ● 廃藩置県に関するパネル展示(～8月)
 - 郷土の人物紹介パネル展示②(～8月)
 - 夏休み親子講座(小・中学生対象)
 - 維新[ISHIN] 37号発行
- 7月 ● 維新演劇シアター〈創作歴史コント〉
- 8月 ● 維新ふるさと館周辺の史跡めぐり(小・中学生対象)
- 教職員歴史講座
- 歴史の質問、引き受けます(小・中学生対象、毎週水曜日)
- 第14回「西郷隆盛をしのぶ」
維新ふるさと館書道展(～10月)
- 9月 ● 史跡めぐりバスツアーアー
- 歴史講座①

※イベントなどは開催時期、内容等が変更になる場合があります。
※歴史講座やシンポジウムなどは申し込みが必要になります。

温故地新

ふる故きをたずね、地元を新たに。

■第3回 かごしま折々あそび展

8月から四季折々の折り紙や昔あそびを展示してきた折々あそび展も3月3日(水)で最終日を迎えました。

第3回もひな人形や鹿児島弁のおはなし会、春らしい鮮やかな花咲窓の



展示など豊かな表現があり、子どもから大人まで楽しんでいました。

参加者からは「鹿児島は言葉も遊びも豊かで小さい頃を思い出し、懐かしい時間を過ごせました」、「小さな折り紙から広がる世界に驚きました。心まで明るくなつて素敵な展示



でした」などたくさんのうれしい感想をいただきました。来年度も趣向を凝らした様々な展示や体験を準備しています。皆様のお越しをお待ちしております。

■維新ふるさと館歴史講座 開講

令和2年度最後となる、維新ふるさと館歴史講座を1月17日(日)・18日(月)に開催しました。

今回のテーマは維新35号でもご紹介した「ビタミンの父～高木兼寛～」。明治時代、全国的に流行した脚気の原因を海軍における実証実験からビタミンの欠乏によるものと提唱し、絶滅に尽力した高木兼寛にスポットをあて詳しく解説しました。受講された方々の関心は高く、メモを取りながら熱心に聞き入っていました。

今年度の歴史講座は9月以降を予定しています。鹿児島の歴史を学ぶ第一歩として、ぜひお気軽にご応募ください。



伊地知、吉井、政変について語る

(鹿児島市山下町)

熱い意見を交わしていたことでしょう。

伊地知正治と吉井友実はともに文政11年(1828)生まれの当時30代、西郷隆盛の1年後輩となります。伊地知らは安政の大獄で揺れる国内の政情を憂いて、脱藩しての尊皇攘夷を計画しますが藩主の説得により断念。しかし、その後幕政改革を図る久光に従って上洛、尊皇討幕運動の中心的存在として活躍していきます。

伊地知正治は軍略家としての手腕を發揮して戊辰戦争を戦い、その後薩摩の藩政改革に取り組みますが、明治4年(1871)廃藩置県を機に政府に出仕します。明治天皇侍講や宮中顧問官などを歴任しました。

吉井友実は大目付や藩重役として討幕運動を推進し、鳥羽伏見の戦いには自らも政府軍を率いて功績をあげました。明治新政府では宮中改革に尽力、天皇の君徳培養を補佐・輔導する侍講を努めました。

西南戦争では2人とも、西郷隆盛と袂を分かちますが、伊地知は戦後の郷土復興に、吉井は西郷銅像建立などに尽力しました。

(文・肥後秀昭維新ふるさと館歴史解説員)



歴史シンポジウム 2月20日開催

2月20日(土)サンエールかごしまで、「未来を切り開いたふたりのてんがらもん 五代友厚と渋沢栄一 経世済民～魂の後継～」と題して、シンポジウムが開催されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を200名と通常の半分にし、座席指定をさせていただきました。400名を超える応募があり、抽選の結果当選された約200名が参加されました。

第1部では、歴史家・作家の加来耕三氏が「渋沢栄一の生い立ちと近代資本主義」、南日本新聞社読者局データベース部部長の桑田正樹氏が「五代友厚の明治産業革命、志と実行力」と題して基調講演を行いました。

残念ながら加来耕三氏は、東京の事務所からリモートでの出演となりましたが、ラジオでおなじみの軽快なリズムでの分かりやすい解説で参加者の心をつかんでおられました。

桑畠正樹氏は、関係資料をスクリーンに映しながら細かいところまで解説していただき、メモを取る参加者の方がたくさんいました。

第2部では、福田賢治前維新ふるさと館特別顧問を交え、肥後秀昭歴史解説員がコーディネーターとして歴史シンポジウムを行いました。五代友厚や渋沢栄一の功績はもちろんのこと、日本の近代化に尽力したのは、ふたりのほかに川崎正蔵もいたという紹介もありました。

参加者の方からは、「コロナ禍の迷走時にふさわしい未来を展望するコツと希望を与えられ、一歩踏み出すことが大事ということを学びました」や「歴史の流れをつかみながら、2人のほかにも活躍された方々の話も聞けて大変勉強になりました」などと感想が寄せられました。

来年度も皆様に満足していただけるようなシンポジウムが開催できるように努めていきたいと思います。



第1部 基調講演／加来耕三氏



第1部 基調講演／桑田正樹氏



第2部 シンポジウム

展示 常設展示(1階) 一部リニューアル



■赤星絵

肥後国の中津城下の領主・赤星統家は、天正9年(1581)肥前(佐賀)の有力者・竜造寺隆信の侵攻を受け、2人の子どもを人質にして降伏しました。しかし、隆信の参陣要請を再三拒んだため「疑心あり」として天正11年2人の人質を残忍な方法で殺されてしまいました。そこで統家は島津氏に援軍を頼み、家久(義久末弟)と嫡男豊久の先鋒として、島原の戦い(沖田嶽の戦い)で活躍、竜造寺隆信はこの戦いで討ち取られます。

この逸話をもとに薩摩の郷中教育の一環である「薩摩琵琶」の戦記物語の中で「赤星(赤星崩れ)」として語られ、薩摩の青少年たちは演奏を楽しみにしていたといわれます。

この「赤星絵」は、明治14年(1881)に当時13歳の樺山清五郎が自分を島津豊久になぞらえて描いたものです。作者の樺山清五郎については、家系など詳細は判明しておりません。

ただ、樺山家が島津氏の有力家臣であったことから、豊久に遠い先祖として特別な感情を持っていたのかもしれません。



■山本権兵衛着用の軍服

山本権兵衛は嘉永5年(1852)鹿児島城下桶之口に、山本五百助の三男として生まれました。戊辰戦争では、箱館五稜郭の戦いまで参戦。その後海軍に転じ、累進して「天城」や「高雄」、「高千穂」などの艦長や海軍省の要職を歴任しました。

明治31年(1898)山県内閣の海軍大臣となり、能力ある人材の士官採用や軍艦の修理・補給体制のための製鉄所・造船所の整備など、近代海軍の創設に尽力しました。日露戦争直前には、東郷

平八郎を連合艦隊司令長官に任命し、その後東郷と同時に海軍大将に昇進しました。

大正2年(1913)と大正12年(1923)に組閣しましたが、シーメンス事件(海軍高官への贈賄事件)・虎ノ門事件(皇太子・のちの昭和天皇が共産主義者に狙撃された事件)などにより、短命内閣に終わりました。

この軍服と帽子・刀帯は、山本権兵衛が着用していた貴重な品です。



維新ふるさと館 ご利用案内

■開館時間／9時～17時
(最終入館は16時30分)

■年中無休

入館料	個人	団体
大人(高校生以上)	300円	240円
小人(小・中学生)	150円	120円

※未就学児は無料です。※団体は20人以上になります。
※身体障がい者手帳や療育手帳などをお持ちの方は減免措置があります。

年間パスポートは とてもお得です!

2回分の入館料で
年間何回でも入館できます。

年間パスポート	個人
大人(高校生以上)	600円
小人(小・中学生)	300円

ご不明な点は、維新ふるさと館へお問い合わせください。